

◆平成26年度の集大成

卒業研究・ケアスタディ・保育実習発表会 を終えて

専門学校静岡電子情報カレッジ
静岡福祉医療専門学校 校長 中村 徹

文化祭

専門学校静岡電子情報カレッジ卒業研究発表会

平成27年2月28日(土)

静岡福祉医療専門学校卒業研究・ケアスタディ発表会

2月27日(金)

ケアスタディ科内発表会

静岡福祉医療専門学校 2年介護福祉学科 平成27年2月24日(火)
2年総合福祉学科 2月25日(水)

卒業研究学科内発表会

専門学校静岡電子情報カレッジ 全学科 平成27年2月20日(金)
静岡福祉医療専門学校 2年医療情報秘書科 平成26年12月4日(木)
3年子ども心理学科 平成27年2月10日(火)

キッズハウスひかり託児所生活発表会「ひかりの日」

平成27年3月7日(土)

平成26年度の学生生活集大成である「卒業研究発表会」と「ケアスタディ発表会」等が文化祭のイベントとして、本学の教育をご理解いただいている企業人や実習指導者、卒業生、地域活動でお世話になった方々等のご臨席を頂き開催された。

我々を取り巻く社会的背景は、経済的には27年度もアベノミクス「三本の矢」による一体的な取組み政策効果から、家計や企業における消費等の内需を中心として景気回復の動きが広がり、好循環の継続と、アメリカ向け輸出を中心として上向き傾向にあることで、26年度に引き続き緩やかな景気拡大が続くと見られる。

世界経済においては、中国を中心とした振興国経済は多少弱めだが、アメリカの個人消費が牽引し、世界経済は緩やかに拡大していくと見られる。ユーロ圏もギリシャやスペインの財政危機をドイツとフランスの底支えにかかっており、欧州統合の父と言われたジャン・モネの「欧州は危機によって形成され、危機に対する解決策の積み重ねとして構築されていく」という言葉で象徴される。

これからの日本経済においては、アベノミクスがより早く発展し、形になっていくことが日本復活につながる。財政規律の維持や成長戦略の強化など、課題となっている改革を今年度やり遂げることができれば、来年度に向けて景気回復に大きな弾みとなる。

要するに、①円高が大きく修正された ②問題になっている自由貿易の遅れも夏ごろを目安に TPP が妥結する方向にある ③法人税も35%から29%まで下げた ④電力不足への対応も原発再稼働の方向が高まっている ⑤日中関係も明らかに最悪期を脱し、改善の方向に向かっているということから現政権の方向性は正しいのか。

また、静岡県内でも円安による物価高止まりの懸念はあるものの、原油安や賃上げ気運の高まりを追い風として、利消費性向が回復、沈滞ムードが払拭され、消費および雇用の喚起、内需回復という強い「景気浮揚サイクル入り」が期待でき、景状感に持ち直しの兆しが感じられる。

我々の経済社会においては、

- ① 大震災からの復興 集中復興期間5年間のこり1年
- ② 原子力代替エネルギー 原発再稼働
- ③ 少子・超高齢化社会と人口減少への対応
- ④ TPP：環太平洋戦略的経済連携協定の対応⇒農業改革、
- ⑤ 大量生産・大量販売の時代が終わり、「モノづくり」の新たな模索などが大きなキーワードとなる。

平成27年2月10日に総理官邸で開催された第16回日本経済再生本部において、今年の成長戦略の目玉プロジェクトとして、「ロボット新戦略」が決定され、ITとロボットの融合により、生活も産業も劇的に変化する新たな時代に、日本が世界の中心で輝くための「ロボット革命元年」としたいと、総理が述べている。

資源が乏しい我が国は、少子高齢化に伴う労働力人口の減少がみられるなか、「人材」の育成と確保こそが、今後の経済成長や国際競争力、地域の産業振興を決定づける最大の要因となり、

- ① 産業構造の変化に対応できる「実践的な職業能力を有する人材」、
- ② 将来にわたり「付加価値を創出する質の高い人材」、
- ③ 労働力のグローバル化が進展するなか「国際的にも高く評価される専門知識・技能を有する人材」

などの社会基盤を支える「ヒトづくり」が急務といわれる。

しかも、少子化が進み、日本の総人口は2007年1億2800万人をピークアウトに、高齢者率20%（うち後期高齢者8%）、生産年齢人口（「国の力」といわれる）60%が、2050年には総人口9,500万人、高齢者率40%（うち後期高齢者25%）、生産年齢人口50%と減少し、そこに働く人材にはより高度な職業能力が求められる。

本学の教育は、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に役立てていくかを使命としている。

ゆえに、専門学校静岡電子情報カレッジでは、クラウド・コンピュ

ーティング時代の先端スキルを産業界との教育連携により、「インターンシップ」や「産学連携人材育成プログラム」等の「企業人との交流」を通して、「社会人基礎力」はもちろん、「企画力」、「本筋を見抜く洞察力」、「統合力」、「問題発見・解決力」などの素養を身につける機会を教育プログラムに取り込んでいる。

また、静岡福祉医療専門学校では、少子・超高齢化社会の人材ニーズに応え、学科・学年ごとにテーマを決めた「職場実習」、「ボランティア活動」を通して「職業観のイメージ付け」や身に着けなければならない「社会人基礎力」に「専門スキル」を自らが認識できるような教育プログラムを構築している。

発表会においては、電子では完成度の高い研究内容であり、制作プロセスやターゲット設定がよくできており、コンテンツとの整合性が非常に高い。プレゼンもポイントを押え、「高付加価値」につながるハイレベルな研究発表がなされた。

また、福祉では各学科ともそれぞれの職業観がよく表現され、来賓も教職員も「若い感性」による上達したプレゼンに称賛の拍手を送った。

この成果は来年度に継承され、今年度以上の大きな成果を期待するところだ。

特に、電子の「産学連携人材育成プログラム」や「コラボレイトによる高付加価値につながるレベルの高い研究」、福祉においては「地域に開かれた専門学校」に基づく「ボランティア：地域活動」等の後輩への継承を強く期待する。

今後も研鑽重ね、「自信」と「誇り」を持ち、「スペシャリスト」としての道を切り拓いていただきたい。

社会にアプローチできる研究テーマへチャレンジし、そのプロセス、プレゼンテーションを通じて自己のスキルアップが図られるのだ。

《卒業研究、ケアスタディ発表会—コンセプト》

1. 時代に即した、将来に向けた研究テーマであること
2. 修得した専門知識と技術の集大成であること
3. コラボレイトにより、関連知識の幅を広げ、汎用性・応用性を身につけること
⇒「高付加価値」に繋げる
4. グループ研究であること—グループ内のインターフェイス(ケアスタディ発表会は個人)
5. プレゼンテーション、コミュニケーション、ドキュメント等の技法をマスターし、アピールする手法を身につけること

6. 「企画書」、「スケジュール進捗状況管理」等を作成し、与えられた時間内で完成する計画的な研究を目指すこと
7. 完成度を100%にもっていくこと
8. 発表の際には、自分の資料を読むのではなく、自分の言葉でプレゼンすること
9. プレゼンの中に、「研究の中で一番試行錯誤した点」や「それが将来どのような分野で、どういう形で役立っていくか」等をマトメの中に含み、可能なら「継続研究」につなげる

文部科学省 成長分野等における中核人材養成の戦略的推進事業
ゲーム分野における産学連携型中核人材養成推進プロジェクト
GCS2014 Game Confarence for Students
専門学校静岡電子情報カレッジ 3MS 野口・2IS 池谷
Gree(株) 企業賞 受賞 おめでとう！！

緊急！！ FM 島田 生 ON エア決定

平成27年3月16日夕方17時30分

産学連携プロジェクト！～FM 島田～

FM ラジオ番組キャラクターデザイン&ウェブページ制作
専門学校静岡電子情報カレッジ1・2ID チームおめでとう！！



◆卒業研究発表会・ケアスタディー発表会を終えて

教頭・教育部長 有賀 浩

<電子情報 企業対象卒業研究・ゼミナール活動発表会>

○発表会御参加講師（順不同）

- ・SSB ソリューション株式会社 専務取締役
（本学学校関係者評価委員・教育課程編成委員）池谷 和彦 様
- ・アイティ・インターナショナル株式会社 代表取締役
（本学学校関係者評価委員・教育課程編成委員）長坂 祐二 様
- ・有限会社スルガエンタープライズ 代表取締役 増井 雄治 様
- ・株式会社FM 島田 放送局長 中根 弘貴 様
- ・株式会社静岡情報処理センター 医療ソリューション事業部システム部
リーダー（本学学校関係者評価委員、本学卒業生）知又 史郎 様

○ご出席頂いた企業の方々からの各グループに対するコメント

【一部抜粋】

<1>

- ・キャラクター制作、完成度が非常に高い。先方のニーズにしっかり応えられた。
- ・プレゼンの「声」がとても良かった。
- ・大人数での取り組みなので、プロジェクトマネジメントが大変だったと思う。
- ・ラジオ番組制作について、下調べ、原稿作成、収録から編集まで、様々な過程を経験され、意義ある活動となっている。

<2>

- ・制作のプロセスがプレゼンでうまく表現されていた。
- ・プレゼンにおける話し方、そのテンポ、マイクの使い方、全てが秀逸だ。
- ・ターゲット（顧客）の設定がよくできていて、コンテンツとの整合性が高い。
- ・実際の売り上げに貢献したことはたいへん素晴らしい。
- ・メリット、デメリットの洗い出しがきっちりできていた。

<3>

- ・作品としての完成度が高い。一般公開に期待します。
- ・ハードウェアスペックの差を吸収できているかどうか知りたい。
- ・難しいと思うが、傾きセンサーの特性をプレゼンでうまく伝えたかった。
- ・効果音やBGMの選択が良い。
- ・スケジュール通りに工程が進められたことを高く評価したい。

<4>

- ・完成度、デザイン性ともにたいへん高い。

- ・プレゼンがポイントを押さえていて、また話し方も良い。
- ・パワーポイントのコンテンツについては、デザイン性が極めて高かった。
- ・発想が素晴らしい。
- ・最後の投稿が全体に影響を及ぼすなど、投稿が少なくならないようにするアイデアを考えて欲しい。

卒業研究はもちろん、今年度初めて取り組んだゼミナール活動に対して、企業の方々から各研究のテーマ選定、着目点、実用性や完成度の高さ、また研究や制作のプロセス（調査・分析や取材、検証）を評価頂きました。特にプレゼンテーションの質の高さについて高評価でした。

更なるブラッシュアップについてもプロの立場からご指導頂くことができました。加えて、今後の本学と産業界の連携協力についても企業の方々に対して十分にアピールできました。

学生諸君は、チームワークによって充実した研究が行えたこと、PDCAサイクルの経験、また産学連携で企業の方々や数多くのコミュニケーションが図れたこと、プロの方々の前でプレゼンテーションさせて頂き評価して頂いた、数々の貴重な経験を卒業後も十分に活かし、実社会で大いに活躍して下さい。後輩諸君には、先輩たちの研究レベルを超えられるよう、一層の頑張りを期待します。

○発表テーマと学生メンバー

■ゼミナール活動発表

(1) 産学連携プロジェクト！～FM島田～

(株式会社FM 島田様のご指導による)

FM ラジオ番組制作、キャラクターデザイン&ウェブページ制作
2年 三田村 尚哉、山本 裕己、尾村 佳奈、山梨 瑞己、松永 智輝、
太田 圭亮、有ヶ谷 純平、鈴木 祥五 (ICT 情報デザイン学科)
1年 滝浪 博斗、白鳥 悠太、川原 宗一郎、伊藤 康平、片又 千尋、
杉山 萌 (ICT 映像・音響デザイン学科1年)

※下線を付した学生6名が代表して発表

(2) 「静岡発！カツオエキスの有機肥料を全国に・・・

ネットショップサイトの制作」

(有限会社スルガエンタープライズ様のご指導による)

2年 伊藤 慎

1年 油井 椋介、杉井 千春 (ICT 情報システム学科)

■卒業研究発表

(1) 傾きセンサーを利用したゲームアプリケーション

池谷 研人、池田 貴哉、伊藤 一馬、小泉 千丈、太田 知希、
リーマ・ケニー (ICT 情報システム学科 2年)

(2) iOS モザイクアートアプリ 「Fickle」

野口 凱登、柴田 莉奈、堀 夏実 (医療情報システム学科 3年)